

カトリック山手教会月報

やまて



編集・発行 カトリック山手教会 広報委員会 〒231-8652 横浜市中区山手町44番地
☎ (045) 641-0735 <http://catholicityamate.org/>

第584号 2018年6月10日

5月20日 聖霊降臨の主日 堅信ミサ

ラファエル梅村昌弘司教 説教（要旨）

今日、聖霊降臨のお祝いをしています。弟子たちとの永遠の別れとなるご自分の昇天を前にイエズス様は様々な心配りをしてくださっていたということ振り返ることができればと思います。弁護者として聖霊を派遣してくださる、この約束はその一つであります。この聖霊の派遣を通してイエズス様ご自身は普遍的な存在になられたと思います。聖霊を通して私たちと共にいてくださる、ご聖体の秘跡（エウカリスチア）を通して私たちと共にいてくださる主イエスと今日も私たちは一致させていただくわけです。最後の晩餐の時にイエズス様がおっしゃった「これを私の記念として行いなさい」は、アナムネーシスといいますけれども、イエスを忘れないように想起するということでもあります。聖霊を通して、ご聖体のうちにおられるイエズス様が私たちと共にいてくださる。これが第一の事です。第二のことは、2人または3人が私の名によって集まるところに私もその中にあるのである、という言葉をもって知ることができます。弟子たちの説教もあって信仰共同体が出来上がっていき、7日毎に、主の日に、主の復活を祝ってエウカリスチア、パンを裂く式を行っていた。必ずしも、パンを裂く式に与ることができない状況にある信仰共同体があったのではないかと思います。そうした状況の中で私たちは信仰者としてイエズス様の名によ

て集まり、主の日を共に祝うと、イエズス様ご自身、私たちと共にいてくださるということだと思います。ミサを通して私たちはそれぞれ「行きましょう、主の平和のうちに」と派遣されていきます。イエズス様と一致させていただいた私たちは、それぞれの場でイエズス様をもたらす人になっていくことができれば、主は確かに復活なさり、そして、今もお共にいてくださる方であるということ私たちがあらゆる形で一人でも多くの人に示していくことができるといふことでもあります。もう一つ大切なのは、私の兄弟であるこのもっとも小さなもの一人にしてくれたことは、私にしてくれたことである、とおっしゃった事です。マザーテレサは、これは第二の聖体拝領であると理解していたといわれています。朝、第一の聖体拝領をもってエウカリスチアの中でイエズス様と一致させていただき、日中はもっとも小さな者の一人とかかわる中で第二の聖体拝領をもってイエズス様と一致させていただいていますということでもあります。パウロは言っています。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだと。コリントの手紙の中では、この私の恵みはあなたには充分であるという一節が、その前に置かれています。私たちが自分の弱さを感じる時こそ、神ご自身が私たちを通して働いてくださる、そうした意味で私たちは弱い時にこそ強いのだと。そうした信仰をもち、希望のうちに復活なさったイエズス様の存在を証していくことができればと思います。今日、聖霊降臨を通して、新たにそうした恵みが与えられるように、皆さん、

お祈りいたしましょう。堅信の秘跡を通して、受堅者だけではなく、私たち一人ひとりに、さらなる聖霊の恵みが新たに与えられ、その賜物をもってよりよい福音宣教者になっていくことができますよう、お祈りしたいと思います。